



最終回 ノイズファクトリー

何故だ！ どうしてだ！ もも最終回だ!!
まあそれ物事には「事情」ってもんがある
のだし、私も大人だからさほどはびびり、さわや
かに去ることにしよう。しかし、4回目にして
最終回とは、トホホ……。

といつまでか今回、最終回は「口ごもり」で
決めていた「ノイズファクトリー」について書
きます。

京都で生まれ京都で育った我々ノイズファク
トリー。昨年の12月に念願悲願のプロデュー
ーを果たしたわけですが、単純にますこの京都



でこのへんくらい知られていけるものだろうか、と思
うことがあります。恐ろしく、いや間違いなほ
んのひと握りてしまうね。でも考えをみれば、
ミラクルやドリカム、米米クラフなどのビッグ
アーティスト、今は同じ土俵に立っているわけだ
よね。おお、つまり「芸能人」だ！ 今だに
庶民感覚の我々は、時折その現状に「はっ」
とすまることがあります。

「垢抜け」してないよとも事実あるであ
らう。ミュージシャンはやっぱ慣れられぬ存
在であり、カリスマ的な部分も持ち合わせてい
ないこともです。でもその庶民感覚であるこ
ろが、実はノイズファクトリーみたいなバンド
にとって大事にしていかんといけな
いとも思っています。ミュージシャン
としての存在が確立され、そして
何となく庶民的、我々が目指すこ
ころはそんなところですかね。

それでは一応メンバーの紹介を
しましょう。

- ・Vocall 「ロッキー生田」
- ・ChooPerc 「アキレスKEN」
- ・Choo&踊り子 「ボンバーHORO」
- ・Bass 「一番星哲也」
- ・Drums 「ガチャロー」
- ・Keyboard 「TacosNana」
- ・Guitar 「ランキ永井」

男7人大所帯、変わり者はばかり
です。リーダーの私は能くもするの
が大変です。最近人員削減も考え

てます(ワンヨー)。

個人的に目標を多ループに「ドリフター
ズ」があります。これは面白さという部分ではな
く、つまり先述のように庶民的であることもそ
うなのですが、ドリフターズにはバカがいてデ
ブがいて又ガキがいて「ロラがいて」「色様々
」ですよね。バンド内でもよく強調するところな
のですが「個性」って大事なところだと思ってい
ます。似たようなのは、人もいろいろです。その
辺、我々はどうかということ、アホがいてデブが
いてデブがいてスケベがいてホモがいて爆弾が
いて男前がいて……なんと色々なことを含んで
いますか。あとほそれぞれがイイ味出しつつひつ
にまとまれば、これはもう鬼に肉棒、いや金棒
ですぜ、お嬢さん。

さて、ノイズファクトリーが今も昔も変わら
ずに愛し続けているものがあります。それはス
バリ「LIVE」です。

もともとノイズファクトリーは、一回限りの
パーティー用のバンドとして始まりました。丁
度5年前の話です。その時のLIVEは、た
だただ人を笑わせようとおかしな事ばかりやり
ました。それがあまりにもウケ、そのライブ
ハウスの人に「次また頼む」とお願いされ、そ
のままスルズルと。今思えば、そのライブハウ
スの人は、耳が腐っていたのでしよう。だって
その時のライブは、演奏も歌もネタも何も、ウ
ケてはいましたかた笑われていただけの超悲
惨なものだったんですよ。まあ耳が腐っていた
おかげで、今我々はこここうしていられるわ
けですから、ひよっとしたらその人に「ハイ感
謝せんといかんのかもしれませんかねえ。」

こうして「遊び」からスタートしたバンドで
すから、その流れは当然今も健在です。「遊び
感覚で」なところとして「トト」会社の人に怒ら
れるかもしれないが、LIVEに耐える我々の
考えは、こうです。CDなどは何回も聞い
たりするものから、それに耐え得るものを
つくらないといけません。ましてやミュージシ
ヤン、独自の発想と主張でもって聞く方に訴
えかけないとダメです。とんがLIVEはこ
うでしょう。「一晩限りのことじゃないですか。

ICHIBANBOSHI
TETSUYA

【プロフィール】
京都市生まれ。27歳。本業
はミュージシャン。2nd
アルバム「NOISE
FACTORY ~Pearl
17~」が好評発売中。
「来年のノイズファクト
リーを見てくださーいよ。な
んかやりませっ!!」

だったりそれこそパーティー気分遊び感覚で楽し
めるとを一番に考えたりしよう。とい
うことです。勘違いして欲しくないのですが、
だからといって「チャチャヤグチャグチャ」にや
るのではないです。曲を聞きに来てる人もい
るわけですから、曲はしっかりやりましょう。フ
ラズでそれだけ楽しめるか、つまり全体を通
してあれだけエンターテインメント性を見せられ、
ミュージシャンとしてのカリスマ性をどれだけ
伝えられるか、ということです。そんなことを
意識してこれからもやり続けていきたいです
ね。

夢を実現させるために上京し、デブウーシ
て来た1年。これからの飯題と道のりはまだ未
定であるように思います。ひと言本音を書かせても
らいますと、京都で生まれ京都で育った京都
出身者の多いバンド「ノイズファクトリー」で
すから、京都は大事にしていきたいし、やっぱ
り京都の人たちには応援してもらいたいと思
います。ですから、できれば読者の皆さんの頭の
どこかに「ノイズファクトリー」というバンド
を置いていただいて、そしてそして、この「コ
ラム」のテーマです。ノイズファクトリーのライブ
を、いつべん見てもいい?!

4カ月間でしたが、このコラムを応援してい
ただいた読者の皆様、本当にありがとうございました。
またどこかでお目にかかりましょう。

【題字・イラスト】アキレスKEN